

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月31日

事業所名 鴻巣市立つつみ学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	3 (未回答 1)	現在はコロナ対策のため、できる限り密を防いで生活している。	集中して指導できるスペースがないので、パーティションなどで工夫しているが難しいところもある。
	②	職員の配置数は適切である	0	10	一人一人の子どもにより丁寧な療育を提供するには現状の配置では厳しい時がある。全職員で連携、協力し現場を支えるようにしていく。	・フリーの支援者がいるとより細かな療育ができる。 ・発作時などの対応がスムーズに行えるようフリー職員がいるとよい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	9	施設が古いためバリアフリー化はされておらず、入口のドアも開けにくく危険もあるが、段差のある場所では子どもたちから目を離さず危険のないように対応したり、ドアノブにタオルなどを巻き危険のないように対策を取っている。	・社会的にはバリアフリー化は進んでいるものの、段差をなくすことは完全ではないため、段差などを意識することで乗り越える力をつけられるようにする。 ・今後も危険と思われる、すぐに改善できるところは速やかに対処する。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっている。	8	2	ドアノブや机、床等使用するすべての物をこまめに消毒し、古い施設ながらも清潔に心地よく過ごせるように心掛けている。	清潔面には感染予防対策も含めて最大限の配慮を行っていますが、トイレトレーニングを行うためトイレの数が少ないことが課題です。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0		
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向を把握し業務改善につなげている	10	0		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	10	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	8		保護者による評価と事業所自己評価を丁寧に見直し、次につなげていく
	⑨	職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	毎月、臨床発達心理士による勉強会(園内研修)が行われている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	0		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0		
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	勤務時間が異なるため連絡ノートを作成し、活動内容や連絡を記入して確認できるようにしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2 (その他 1)		勤務時間が様々であり、バス送迎業務などもあることから実施できないこともあるが、可能な範囲で行える時には行い、振り返りのための時間を持つよう工夫していく。また、連絡は密に行っている。
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0		
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0			

関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援を行っている	10	0		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援する場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援する場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(幼稚部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	特別支援学校に就学が決まった場合は担当者への情報提供の機会を設けている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0	研修は可能な限り受ける努力をしている。今年度はコロナ感染拡大防止の観点より、オンライン研修となった。	
	㉘	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10	0		今年度もコロナ感染症蔓延防止のため、受け入れる側の都合もあり回数が減ってしまったが、来年度も状況を鑑みながらなるべく予定通り行えるとうい。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10	0		
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0		
保護者への説明責任等	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	5	ペアレント・トレーニングは行っていないが、月に1度親子教室時に臨床発達心理士による保護者向けの話は行われている。	
	㉜	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10			
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10			
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同志の連携を支援している	6	3 (未記入2)	保護者会は特にないが、つくしんぼ教室などで保護者同志の繋がりはある。	現在、保護者同志の交流の場が少ないが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からすると、現在の状況下においては場の提供など難しい側面もある。今後の状況を見ながら検討したい。
	㊱	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0		
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0		
	㊳	個人情報の取り扱いに十分注意している	10	0		
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0		
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	2 (未記入2)	近隣の方との、挨拶や会話を心掛けている 実習生の受け入れも積極的に行っている。	鴻巣ライオンスクラブの方を発表会に招待したり、見学の方などにも行事の様子や子どもたちの楽しんでいる姿を写真のパネルにして、つつみ学園の様子を紹介している。
+	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	0	親子教室での消防署立会の避難訓練や引き取り訓練	各種マニュアルを保護者に周知することは特にしていないが避難訓練は毎月行い、親子教室時などに親子参加での訓練も行っている。
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0		

非常時の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	10	0		
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0		毎年、新年度開始前にアレルギーの有無について調査し、該当する場合には保護者と管理栄養士、看護師による面談を行っている。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0		
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	毎年、虐待防止のための研修会に参加し、情報共有と虐待防止に努めている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画にきざしている			身体拘束は行っていない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。